

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 9 日

1. 職名・氏名 教授・吉浦康寿

2. 学位 博士、専門分野 魚類生理学、授与機関 東京大学、授与年 1997

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 一年次：生物学 II（2 単位：分担 5 コマ）、フィールド演習（2 単位：分担 5 コマ） 二年次：水族発生工学（2 単位：15 コマ）、生物学実験（2 単位：分担 4 コマ）、養殖学概論（2 単位：分担 1 コマ）、分子生物学（2 単位：分担 4 コマ） 三年次：遺伝子育種学実験（2 単位：15 コマ）、養殖学実習 II（2 単位：分担 9 コマ）
② 内容・ねらい 今後の専門教育に必要な生物学の基礎を習得するとともに、これらを理解した上で、養殖学、水族発生工学の基礎と応用への理解度を深める。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 パワーポイントを活用し、イラストや動画を多く取り入れることで、学生が視覚的に理解しやすい授業を展開した。また、要点を簡潔にまとめた配布資料を授業中に配布し、授業後も必要に応じて学生が理解を深められるよう、レポート課題を課した。 実験では、地元に生息する天然メダカを採取して遺伝学実験に利用するとともに、遺伝子交雑による遺伝子汚染の調査を行った。これらの取り組みを通じて、地域固有のメダカ資源の保全について学べるよう工夫した。 さらに、創造農学科の篠山先生と連携し、互いに担当する育種関連科目の一コマを活用した交換授業を実施し、花卉と魚類の育種を題材とした講義を行った。これにより、対象生物の異なる育種手法を比較しながら、多様な生物に共通する育種の考え方やその実践について学ぶ機会を提供した。
(2)その他の教育活動

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	
	【 本】
②学術論文（査読あり）	
1. Relationship between temperature and hatching of tiger puffer Takifugu rubripes eggs, and application to synchronize hatching Tadashi Imai, Takashi Katayama, Tetsuo Morita, Satoshi Imai, Taizo Morioka, late Yoshihisa Yamamoto, <u>Yasutoshi Yoshiura</u> Aquaculture Science (2025 年 10 月 受理)	
2. Anisakis larvae in live-caught chub mackerel from Japan: tissue-specific distribution and sibling species identification Fumio Takizawa ¹ , Fumiya Ito ¹ , Chiaki Ose ¹ , Kouki Kakita, Gakuto Nakazono, Ryuto Iguchi, Eiji Miyawaki, Tomoki Maeda, Daisuke Shimizu, Hideaki Matsui, Hirokazu Suzaki, Kei Zenimoto, Atsushi Ido, Miwa Kuroyanagi, Masatomi Hosoi, Masahito Matsukawa, <u>Yasutoshi Yoshiura</u> , Masami Hamaguchi, Maki Ohtani, Toshiaki Miyadai, Hiroaki Suetake (2025 年 12 月 受理)	
	【 2 本】
③その他論文（査読なし）	
	【 本】
学会発表等	
1. ミナミメダカ種群における高温耐性の系統間比較と評価指標の確立 池田拓史・黒柳美和、安齋賢・松田勝・ <u>吉浦康寿</u> 2025 年日本水産学会秋季大会 2025 年 9 月	
2. トラフグにおける Fshr cDNA の全長塩基配列解析と季節変動に伴う機能喪失型転写産物の出現 渡部芳春・黒柳美和・西辻淑恵・西辻光希・末武弘章・ <u>吉浦康寿</u> 2024 年日本水産学会秋季大会 2025 年 9 月 2025 年 9 月	
3. マサバ・ゴマサバのハイブリットによる高温耐性サバの作出 <u>吉浦康寿</u> 2025 年日本水産学会中部支部大会シンポジウム 2025 年 12 月	
4. ゴマサバ×マサバにより作出された交雑種は高水温に強いのか？ 池田拓史・上村玲斗・黒柳美和・田原大輔・ <u>吉浦康寿</u> 2025 年日本水産学会中部支部大会 2025 年 12 月	
5. サバ類の新品種作出を高効率化させるための遺伝情報基盤の構築 田邊丈士・池田拓史・西辻淑恵・ <u>吉浦康寿</u> ・西辻光希 2025 年日本水産学会中部支部大会 2025 年 12 月	
6. 飼育環境の違いに柔軟に対応できるサバ検出ニューラルネットワークの開発 吉野翔・田原大輔・ <u>吉浦康寿</u> ・北山和也・八杉公基 2025 年日本水産学会中部支部大会 2025 年 12 月	
7. 深層学習を用いたサバの個体識別ニューラルネットワークの開発 中井琳大・田原大輔・ <u>吉浦康寿</u> ・北山和也・八杉公基 2025 年日本水産学会中部支部大会 2025 年 12 月	
8. LHRHa カカオバターを用いたマサバの自然産卵 上村玲斗・池田拓史・ <u>吉浦康寿</u> ・田原大輔 2025 年日本水産学会中部支部大会 2025 年 12 月	

【8本】
④ その他の公表実績 学内以外での研究関連講演 “地球温暖化に対応する高温耐性養殖魚の開発” 県立大学小浜・かつみキャンパスを育てる会 2025年6月 “魚も育種で進化する！バイオテクノロジーで広がる水産の未来” ―高温に強いサバづくりへの挑戦― 小浜市・若狭町・高島市総合振興協議会研究会 2025年8月 【2本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 ”白子も食べられる”受精を標的とした養殖魚の新規不妊化技術の開発 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B) 2024年4月 - 2027年3月 吉浦康寿（研究代表）、亀井保博、吉川廣幸 新たな養殖魚市場を創造するサバ完全養殖実用化事業 大学発産業基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム TaSH GAP ファンド ステップ2 2025年4月～2028年3月 福井県立大学：田原大輔（研究代表）、吉浦康寿、細井 公富 養殖業の持続性と生産拡大を実現するゲノム選抜育種技術の実装 「イノベーション創出強化研究推進事業」【開発研究ステージ】 令和4年度～令和8年度（5年間） 研究統括 細谷将（東京大学）、参画機関 長崎水試、福井県立大学、マルハニチロ リージョナルフィッシュ株式会社との共同研究「水産物（貝類、甲殻類、魚類）の突然変異誘発法の開発」令和7年7月～令和9年3月 【学内】
(3)特許等取得
(4)学会活動等
水産学会運営：2025年日本水産学会中部支部大会シンポジウムの企画責任者 2025年日本水産学会中部支部大会 2025年12月

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
(3)学内行事への参加
オープンキャンパスの運営、福井県立大学公開講座の講演
(4)その他、自発的活動など